

“幸せな帰町”復興・再生への道のり



遠藤町長

平成29年第2回広野町議会定例会が6月15日、16日、2日間の会期で開催されました。定例会の開会に当たり、遠藤町長より第1回定例会（3月開催）以降の町政経過報告を行いました。

町民の皆さんにお伝えしたいことがたくさん盛り込まれていますので、主な内容の抜粋を掲載します。

総務課

平成29年度より、町民目線で分かり易い行政組織を実現すべく、行政機構改革を実施しました。役場職員一体となり士気向上に努め、町民から見えて分かり易い行政組織との両立を図ります。これに伴い、フロア配置も変更することとなりましたが、町民への事前の周知徹底を図り、混乱もなく、各課業務を遂行しております。

4月27日、広野町公民館大会議室において平成29年度行政区域長会議を開催し、各担当課長が平成29年度の重点事業などを行政区域長に説明し、事前にいたっていた行政区域長からの要望・質問事項に回答しました。



行政区長会議

これまで東日本大震災以降、町からの広報紙などの配布については、避難世帯単位に月2回、行政情報などを各戸に郵送しておりましたが、今後の広報紙などの配布の在り方について

は、震災前と同じ行政区画の方法に戻す方針を説明し、行政区長の承諾を得ることができました。行政区画を始める時期については、準備期間を設け、平成29年7月から実施します。

6月3日から4日の日程で、第32回広野町民号を「世界遺産平泉・南三陸と志戸平温泉ふれあいの旅」と銘打って、実施しました。町民約180人の参加を得て、親睦と融和を図り、親交を深めるふれあいの旅を楽しむことができました。これを契機に、避難により希薄になっていた住民同士の交流が再開し、コミュニティの再生へと繋がることを期待しております。

3月11日広野町中央体育館において、広野町復興イベント「ふるさと復興、再生への祈り」を開催しました。当イベントは、「祈り」をテーマとして、オペラ、尺八、仏教音楽声明の奏者が出演、共演し、多くの聴衆を魅了しました。また、特別ゲストとしてジャーナリストの下村満子様にご来場いただき、「祈り」についての所感をお聴かせいただきました。

復興企画課

4月1日、復興交付金事業により平成27年度から整備を進めていたJR常磐線を股ぎ、広野



「未来のかけ橋」開通

5月3日には二ツ沼総合公園において、「ふれあいフェスタ」を開催しました。当日は、お笑いライブショーやマル・バツクイズ大会、各出店者による飲食物・雑貨などの販売を行い、天候にも恵まれ、家族連れを含め約2千人の方にご来場いただき、連休にふさわしいイベントとして楽しんでいただきました。また、吉野正芳復興大臣も当イベントにご来場いただき、広野町を始め、被災地の復興に全力で取り組んでいくとの力強いお言葉をいただきました。

の事業の円滑かつ確実な事業展開を推進するため「広野町テレワーク推進協議会」を立ち上げました。当事業は、働きたくても働けない方などへの就業支援であり、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を提供するものであります。

5月11日、下浅見川本町地区に、将来にわたり震災の記憶を風化させることなく、後世に伝え、災害からの確実な復興を記念するため平成28年度復興交付金事業で整備していた震災記念公園内の「東日本大震災記念碑」の除幕式を、本幡浩復興庁福島復興局長をはじめ、議員ご臨席のもと厳粛に執り行いました。

5月21日、大臣就任以降2度目となる吉野正芳復興大臣のこ来町をいただき、役場にて黒田政徳議長、北郷幹夫副議長ご臨席のもと、町の現状を説明し、13項目にわたる要望書を大臣に提出しました。要望に対し吉野復興大臣からは、「地元選出の大臣として広野町の復興を全力で支援していく」とのお言葉をいただきました。

5月24日、当町において以前から交流があった静岡県伊東市と自治体間の「友好都市協定」を黒田政徳議長立ち会いのもと伊東市佃弘巳市長と締結しました。本協定の締結により、文化交流はもとより多岐にわたる交

流を深め、ふるさと復興を加速化します。

同日公民館において早稲田大学環境総合研究センターによる「ふくしま広野未来創造リサーチセンター」の開所式ならびに記念シンポジウムが開催されました。早稲田大学環境総合研究センターが福島の復興を大きなテーマとして、広野町を拠点に5年間、双葉郡や浜通り全体を広域的にとらえ、産業・雇用などの社会システムのあり方の研究や、イノベーション・コースト構想の推進にあたり課題となっている人材の確保、育成に取り組むため、地元高等教育機関およびふたば未来学園高校との連携を目指すことを目的に開設されたもので、二ツ沼総合公園パークギャラリーに設置します。

広野駅東側ホテル整備事業につきましても、公募により事業者を選考されたスターリングパートナーズ合同会社は、本年7月のホテル建設着工に向け準備を進めておりますが、新たに現地法人「ひろのプロジェクト合同会社」を設立しホテルを運営していくこととなります。6月1日、このホテル事業の経済効果や雇用の拡大などを町の地域振興に繋げるため、地域と連携した事業展開を基本とする協定をひろのプロジェクト合同会社と

の間で締結しました。

健康福祉課

医療環境向上推進事業につきましては、地域の医療環境の向上を図り、町民への質の高い生活環境を提供するため、6月1日より町内医療機関に対する町単独の支援事業として「救急患者受入支援事業」および「休日医療体制整備事業」を開始しました。

保健事業につきましては、震災以降、活動を休止しておりました保健協力員・母子推進員の活動を再開しました。4月1日付けで10人の方を委嘱し、乳幼児健診をはじめ町の保健事業にご協力をいただいております。地域住民に対する保健事業の円滑な運営を図っていきます。

5月8日、帰町した皆様は、これまでの避難生活によるストレスと、帰町してからの様々なストレスなどを要因とする健康被害が心配されることから、保健師、および管理栄養士が、各地区集会所で開催される「地区のつどい」に参加し、生活習慣の見直しと改善に向けた健康教育を実施しました。今年度においても、昨年度同様、各地区に

5月10日から、運動不足の解消を図り、心身ともに健康で楽

しく健やかな生活を送るため、スポーツインストラクターが運動指導を行う「元氣アップ教室」を保健センターにおいて、開始しました。教室は午前の部、午後の部、夜間の部で年間累計61回開催いたしますので、沢山の皆様は、健康増進のため、参加されるよう周知を図ります。

福祉事業につきましては、3月末の応急仮設住宅等の供与終了にともない、各応急仮設住宅より町や病院、商店間を運行していただきました福祉バスが終了したことから、要介護者など公共交通機関などの利用が困難な方のため、既存の外出支援サービスを拡充し、町内、いわき市内および檜葉町・富岡町の病院・公共施設などへの外出支援を実施しております。町内居住の障がい者・障がい児の皆様への通所につきましても、郡内の施設が多くが再開しております。いわき市内の施設の利用に頼っている状況であります。このことから、町内居住で、いわき市までの送迎が困難な皆様のため、専門の移送事業者委託する移動支援事業を開始しました。

介護予防事業につきましては、要介護状態を防ぐための事業として、町老人クラブと連携し、昨年度より導入した「いきいき100歳体操」は、住民主

子ども家庭課

本年4月より、子ども家庭課は、子ども家庭係および子ども育成係の2体制でスタートしました。

子ども家庭係では、保健センターと連携し、4月27日に離乳食教室、5月2日には乳幼児健診を実施し、25人の参加がありました。

5月17日、郡内の避難住民も対象とした2歳児相談会を当町において開催しました。

6月1日、「広野町要保護児童対策地域協議会」の実務者会議を開催しました。当日は、福



馬場医院竣工式